

## Can-do statements シラバスに基づく日本語初級教材の開発

島田めぐみ\*・伊能 裕晃\*・坂田 睦深\*・澁川 晶\*・新谷あゆり\*  
東泉 裕子\*・宮本典以子\*・谷部 弘子\*

留学生センター

(2014年9月30日受理)

### 1. 背景と本研究の目的

東京学芸大学留学生センターが開講する日本語科目は日本語能力の水準に基づき、「日本語5」から「日本語1」の5レベルに分かれている。今回対象とするレベルは、初級後半にあたる「日本語4」である。初級の日本語教育では、文型積み上げ式の教科書を使用することが多く、本センター日本語4のクラスにおいても文型積み上げ式の教科書を採用している。学期末に実施しているコース評価では、受講者である留学生から「習った文法をいつ使ったらいいかわからない」「文型を習ったが使い方がわからない」などの意見が聞かれることがたびたびあった。日本語4で使用している『みんなの日本語』（以下、『みんな』）の各課は、最初にターゲットとなる文型が提示され、それに続き、その文型を使った会話例、そして文型を習得するための置き換え練習の練習AからCが与えられている。下記の練習Cは、文レベルの置き換え練習ではなく、短い会話中での文型の使用例が示されている。下線部分の置き換え練習の形式となっているが、どのようにターゲットとなる文型が使用されるか提示されていると言える。このようにどのように文型を使うか提示されているにもかかわらず、受講生から「習った文法をいつ使ったらいいかわからない」という声があがるのは、下記例の1. と3. がそうであるように、同じ課であるにもかかわらず練習Cの各問題が話題や場面という点において独立しており、共通の場面、話題、機能が示されていないからだと考えられる。そこで、課ごとに目標とする言語行動記述文を示して、受講者にとってより身近な場面での文型の使い方を示すことができる補助教材を開発することとした。

『みんな』43課 練習C

1.

A: ミラーさん。

B: はい。

A: コートの ボタンがとれそうですよ。

B: あ、ほんとうだ。気がつきませんでした。どうも。

3.

A: ちょっと コンビニへ 行って 来ます。

B: じゃ、お弁当を 買って 来て くれませんか。

A: いいですよ。

---

\* 東京学芸大学 (184-8501 小金井市貫井北町 4-1-1)

補助教材を開発する際、先述のとおり具体的な言語行動記述文により目標を示すこととし、Can-do statements（以下、Can-do）を利用したシラバスを採用することとした。Can-doは、CEFR（Common European Framework of References for Language: Learning, teaching, assessment: ヨーロッパ共通参照枠）<sup>1</sup>に導入されたことにより、多くの教育機関やテスト開発機関に多大な影響を与えている。CEFRでは6段階について共通参照レベルが設定され、それぞれが例示的能力記述文（Can-do）で記述されている。

日本語教育分野においても、Can-doで目標を示す教材の開発が進んでいる。たとえば、『まるごと』は国際交流基金がJF日本語教育スタンダード<sup>2</sup>に基づいて開発した教科書である。各課には「目標Can-do」が複数示されている。表1は、第5課の前半部分の「目標Can-do」と「主な表現」をまとめたものである。「主な表現」の出現順は易しいものから難しいものへと移行するようデザインされている。しかし、易しい表現で実現できるCan-doが必ずしも学習者にとって必要度が高いとは限らない。表現の難易にこだわると、学習者にとって必要なCan-doがなかなか勉強できない、あるいは取り上げられない、という可能性もあるだろう。本研究では、文型の難易を考慮しつつも、学習者が遭遇する可能性の高い場面で必要となるCan-doをとりあげることを優先し、補助教材を開発することとした。

表1 『まるごと 日本のことばと文化』初級1 A2<かつどう>

目標Can-do	主な表現
20 いつ、なにをごを べんきょうしたか 話します	だいがくのとき、にほんごを べんきょうしました。
21 いままでに べんきょうしたがいこくごについて 話します	スペインごは ぶんぼうがむずかしいです。 アラビアごは 話すのがおもしろいです。
22 いつ、なにをごを べんきょうしたか きろくを書きます	
23 がいこくごや がいこくごのべんきょうについて こまったとき、だれかに たのみます／たのまれて こたえます	そのじしょ（を）、かして くださいませんか。 かんじの 書きかたをおしえて くださいませんか。 いいですよ。どうぞ。／すみません。いま、ちょっと…。

## 2. 本開発教材の対象者

本研究で開発する教科書の対象者は、本センターの日本語4レベルの科目「総合」の受講者であり、初級後半レベルを学習している。「総合」科目は、月曜日から金曜日まで1限に開講されており、週に5コマすべてを受講することが求められている。教科書は『みんな』を使用し、週5回のうち1回程度、開発する教材を使用している。

日本語4の受講者は、プレースメントテストの結果に基づいて決定される。春学期は教員研修留学生<sup>3</sup>、秋学期は交換留学生が多い。教員研修留学生は、前学期に本学の日本語5レベルで初級教科書の学習を終了しており、交換留学生も自国で初級教科書を終了している者が多い。したがって、日本語4で扱う文法項目は受講者にとって既習のものが多く、そのため、教材開発に際し比較的自由に文法項目や語彙を導入でき、学習者の必要に応じたCan-doを取り上げることが可能である。

## 3. 開発の経緯

### 3. 1 第1期（2012年度秋学期から2013年度春学期）

2012年10月、教材開発ワーキンググループを結成した。当初の方針は次のとおりである。

- ①『みんな』を主教材とし、2～3課ごとに目標となる言語行動記述（Can-do）を作成する。
- ②具体的な言語行動を想定し、Can-doで目的を示す。
- ③必要であれば未導入の文法項目や語も含める。
- ④映画、アニメ、マンガなどから、学生が遭遇すると想定される場面とそこで使用される表現を収集し、デー

データベースを作成する。

データベースを作成するために、次にあげる映画5本、マンガ2本の全編あるいは一部を文字化し、主に初級で扱われる文型が使用されている表現を取り出し、各表現に機能のラベル付けをおこなった。

映画：『おもひでぽろぽろ』（1991）、『耳をすませば』（1995）、『天国の本屋』（2004）、『僕たちは世界を変えることができない』（2011）、『僕達急行A列車で行こう』（2012）

マンガ：『ハチミツとクローバー』（集英社、2007）、『のだめカンタービレ』（講談社、2010）

教材の作成方法は、まず、『みんな』で使用される文型が映画やマンガの中でどのような機能で使われるかを検討し、その機能を参考に具体的な Can-do を設定する。次に、設定した Can-do を実現するために必要な表現を④のデータベースから抽出する。たとえば「初めて会った人にあいさつをする」という Can-do を設定したら、④のデータベースから「初めて会った人にあいさつをする」場面の表現を抽出する。そして、抽出した表現を参考に教材を作成するという方法をとる。また、授業では、該当部分の映画の視聴あるいはマンガの読解を行うことにより、使用場面を明示し、できるだけ現実的な表現を導入することとした。

2013年度春学期の授業担当者は、上記方針のもと教材を作成し、授業を実施した。表現や文型の使用場面と使用方法を映画やマンガで示したことにより、表現や文型を「いつ」「どのように」使用するかということを示すことができたと考えられる。反省点としては、映画やマンガの表現にこだわったため、限られた機能しか扱えなかったということがあげられた。また、『みんな』の進度にあわせてため、当初の方針に反して、Can-do 教材を利用した授業が「文型の復習」という位置づけとなり、Can-do や扱う表現が既習の文型にとらわれてしまったということもあげられた。

### 3. 2 第2期（2013年秋学期）

2013年度春学期の反省点を踏まえ、主教材である『みんな』の進度にはとらわれずに教材を作成することとし、2013年秋学期、各担当者が試行した。試行の結果、各課の構成を表2にあわせて教材を整備した。

表2 各課の構成（第2期）

項目	内容
Can-do 目標	目標を Can-do で示す。
はじめる前に	ウォーミングアップとして、目標 Can-do の経験などに関する質問を2つあげる。
Can-do タスク	Can-do に基づくタスクを示し、どのように課題を達成するか受講生に考えさせる。
こんな言い方・あんな言い方	前項目の「Can-do タスク」を達成させるための会話例を示す。
ふくしゅう・れんしゅう	目標 Can-do を達成するのに使用できる文型や表現の練習を行う。
こんなときどうしますか？	関連する Can-do タスクを2つから3つ示す。
見てわかる？聞いてわかる？	映画やマンガの場面、ホームページ、冊子などから Can-do に関わる現実的な場面を示す。
やってみました！	授業後、現実の場面で目標 Can-do を実施し、報告させる。終了後、目標 Can-do について自己評価を行わせる。

### 3. 3 第3期（2014年春学期）

2014年度春学期、104の Can-do 項目リストを作成し、その中からの26課分の教材案を作成し、18課分の教材を試用した。通常1回の授業で本教材1課分を扱ったが、2課分扱った回もあった。試行の結果、次の問題点が指摘され、それぞれ必要な解決策をとることとした。

①「Can-do 目標」に記載された日本語の文言など、学習ターゲット以外の「日本語」の意味説明に時間がかかった。

解決策：「はじめる前に」を「ウォームアップ」とし、「目標」と「ウォームアップ」の内容に英訳をつけ

る。また、教材に「本教材について」を執筆し、「目標」や「ウォームアップ」について説明する。

②学習者の主体的な活動を促すことができなかった。

解決策：「ウォームアップ」を宿題として取り組めるようにする。

③Can-do 目標のたてかたが統一されていない。

解決策：Can-do 目標に複数の行動が含まれないようにする。また、個別的なものではなく、応用が可能な目標を記述する。

④必要な語が学習者にとってわかりにくく、授業が進めにくい。

解決策：その課の Can-do の遂行するために役立つ語をまとめて提示する。

その他にも、第2期の反省点をもとに教材構成にいくつかの修正を加えた。まず、映画などから例を提示する「見てわかる？聞いてわかる？」の部分は、印刷する必要がないものもあるため、各授業担当者が印刷する教材とは別に準備することとした。また、「やってみました！」は実際に目標 Can-do を行った報告と自己評価を提出させる必要があるため、教材には入れず、別紙で配布することとした。その結果、最終的な教科書の構成は表3のようになった。主な修正箇所は下線で示した。2014年8月までに完成した課は資料1のとおりである。これらを冊子としてまとめ、2014年度秋学期に試用することとした。

#### 資料1：教材目次（Can-do 目標）

1. 困ったとき、近くにいる人に何かしてほしいと頼むことができる
2. 店員に探しているものの場所を聞くことができる
3. 友だちを買い物、映画、スポーツ、食事などに誘うことができる
4. 友だちと相談して、どこかに行くプランを決めることができる。
5. 電気店で電気製品について質問することができる
6. 電話でレストランの予約をすることができる
7. レストランで食事する（席の希望を言う・注文する・支払う）ことができる
8. 電話で料理を注文することができる
9. おすすめのホテルを友だちに聞くことができる
10. 遅刻したとき、休んだとき、宿題を忘れたとき先生に理由を言って、謝ることができる
11. 授業を休むことを先生に言うことができる
12. 授業を休むことを先生にメールで言うことができる
13. SNSなどで簡単なコメントを投稿できる
14. SNSなどの友だちの写真を見て、感想を言ったり、質問をしたりすることができる
15. 招待されたり、ごちそうされたり、プレゼントをもらったりした後でお礼のメールが書ける

表3 最終版各課の構成

項目	内容
目標	目標を日本語と英語にてCan-doで示す。
ウォーミングアップ	課でとりあげる場面についてどのような経験があるか日本語と英語により質問を2つあげる。この部分を考えることを宿題とする。
タスク	Can-doに基づくタスクを3つ示し、どのように課題を達成するか受講生に考えさせる。
こんな言い方・あんな言い方	前項目の「タスク」を達成させるための会話例を示す。
表現練習	目標Can-doを達成するのに使用できる文型や表現の練習を行う。
こんなときどうしますか？	関連したタスクを2つから3つ示す。
あたらしいことば	目標Can-doを達成するために必要な語と表現をあげる。

表4 Can-do項目「SNSなどで簡単なコメントを投稿できる」で扱う文型・表現

Can-do教材		『みんなの日本語』	
文型	表現	課	例文
V-テくる	きのう、つきじに行って来ました。	43	ちょっと飲み物を買って来ます。
V-ウ・ヨウと思う	こんどは晴れた日に行こうと思います。	31 (参考)	(発表の準備) これからコピーしようと思っています。
V-テ／いAd-テ／なAd-デ	まぐろはしんせんで、ほんとうにおいしかったです。	39	問題が難しくて、わかりません。
V-テる	すごくこんでました。	29 (参考)	このふくろはやぶれています。

#### 4. 従来の教材との相違点

今回開発した教材は文型積み上げ式ではないが、文型項目を表現として練習する形となっている。表現で扱われる文型が、従来の文型積み上げ式の扱われ方とどのように異なるか、どのような特徴があるかを考察する。ここでは、当該クラスで使用している『みんな』をとりあげ、本教材でとりあげる文型と比較する。

本教材の13課「SNS<sup>4</sup>などで簡単なコメントを投稿できる」で扱われる文型項目をとりあげ、その文型項目が『みんな』のいずれの課で出現するか、またどのような例文がとりあげられているかをまとめたものが表4である。「V-テくる」は、『みんな』では表4にあるとおり「ちょっと」がともなわれており、「行って、すぐに戻る」というニュアンスで扱われている。例文だけではなく、置き換え練習Cにおいても「ちょっと」がともなわれている（本稿「1. 背景と本研究の目的」参照）。しかしながら、本教材で扱う例は「銀座でお寿司を食べてきました」のような報告表現であり、このような表現はFacebookなどへの投稿でも高い頻度で観察される。文型として「V-テくる」の文法的知識を持っている中級学習者でも、このような報告表現では「行きました」「食べました」を使用し「V-テくる」を使用することは難しい。このひとつの要因として、「V-テくる」が『みんな』のように「行って、すぐに戻る」という意味で、「ちょっと」をともない導入されているということが考えられる。次の「V-ウ・ヨウと思う」は『みんな』に扱いはなく、『みんな』では「V-ウ／ヨウと思っています」が扱われている。また、最後の「V-テる」は「V-テいる」の省略形であり、『みんな』では「V-テいる」のみの扱いである。しかし、話し言葉では「V-テる」の使用頻度は高く、在日学習者は日常的に「V-テる」のインプットがあるはずである。FacebookなどSNSは、文字媒体によりコミュニケーションが実現されるが、話し言葉の特徴が多く表れるため、この課においても「V-テる」を導入した。このように、『みんな』に扱いがない文型も、その課のCan-doを遂行するのに必要と判断されれば積極的に導入した。

次に、本教材1課の「困ったとき近くにいる人に何かしてほしいと頼むことができる」というCan-doをとりあげる。これは在日日本語学習者にとっては重要なCan-doのひとつと言える。表5を見てわかるとおり、この課でとりあげた例文と同様の表現は『みんな』では扱われていない。表5から、『みんな』でとりあげられている「依頼場面」は目上の依頼場面に限られていることがわかる。先述の『まるごと』（表1）でも敬語を使った依頼表現（～てくださいませんか）が導入されている。しかし、本研究において映画等から取り出したデータベースでは、身近な人物への依頼が多く観察された。本教材の対象者である学習者も同年代との交流が多いと考えられるため、より現実的な「同年代への依頼」を多くとりあげた。また、『みんな』における「依頼場面」は14課から41課までの複数の課で扱われていることがわかるが、本教材では、それらをCan-do目標にあわせて1つの課に集約し、目標に焦点をあわせるようにした。

本教材で扱う表現を『みんな』で扱われる文型と比較した結果、次の特徴があることが確認できた。

- ①『みんな』では扱われない場面での使用をとりあげている。（例：V-テくる）
- ②『みんな』に比べ同年代とのコミュニケーション場面を多く取り入れている。
- ③文型の難易にこだわらず、Can-doに必要な文型を同一の課でまとめている。



表5 Can-do項目「困ったとき近くにいる人に何かしてほしいと頼むことができる」で扱う文型・表現

Can-do教材		『みんなの日本語』	
表現	例文	課	例文
V-テくれる↑／V-テくれませんか	いっしょに行ってくれる(↑)。	41 (参考)	ひらがなで書いてくださいますか。
V-テもらえる↑／V-テもらえませんか／V-テいただけますか	ここに書いてもらえませんか。	26 (参考)	生け花を習いたいんですが、先生を紹介していただけませんか。
V-テもいい↑	自転車, かりてもいい(↑)。	15 (参考)	このカタログをもらってもいいですか。
V-テ	ちょっと手伝って。	14 (参考)	あのシャツを見せてください。

## 5. 考察

文型積み上げ式の教科書の文型からCan-doを記述し、会話や例文を作り上げようとする、これまでの初級教材の例文や使われ方から制約を受けてしまうが、本研究では、既存の教材を離れ、映像資料などから場面や表現を拾い上げたため、従来の教科書では取り上げられていない使い方や表現を含めることができた。また、Can-do目標を立てたことにより、文型や表現をいつ、どのように使うか学習者に明示できたと考えられる。その点で、本研究の出発点である「習った文法をいつ使ったらいいかわからない」「文型を習ったが使い方がわからない」という学生の声にこたえることができたのではないだろうか。また、Can-doで目標が示されているため、学習者自身で目標が達成できたかどうか判断することが容易となったと考えられる。

本教材を開発するにあたり、学習者が遭遇する可能性のある104のCan-do項目リストを作成し、現在15の教材が作成されている。扱う文型は限られており、偏りも見られる。今後徐々に扱う文型数を増やしていく予定であるが、初級文法と定義される文型が網羅されるようになった時点で主教材として活用することを考えたい。また、現在はモジュール型教材の形式をとっており、どこからでも利用できるように設計されているが、今後、習得研究を参考にしながら課の配列を考えたい。

## 付記

本研究は、東京学芸大学平成25年度重点研究費（モジュール型日本語教育教材の開発に向けた映像資料の教育資源化）、平成25年度教育支援経費（初級日本語教材開発のための資料作成）の助成を受けて行われた。

## 注

- 1 CEFR は、1990年代、欧州評議会（Council of Europe）により、ヨーロッパにおける活発な移動、より効果的な国際間コミュニケーションの観点から、言語教育のシラバス、カリキュラムのガイドライン、試験、教科書などの向上のために開発された。
- 2 CEFRを参考に国際交流基金が開発した日本語の教え方、学び方、学習成果の評価のし方を考えるためのツール。「Can-do」で6つのレベルの熟達度を示している。
- 3 教員研修留学生のプログラムは、自国の初等、中等教育機関の現職教員および教員養成学校の教員が日本政府（文部科学省）から奨学金を支給され、日本の大学において学校教育に関する研究を行うものである。
- 4 Social Networking Serviceの略。Facebook, Twitter, Lineなどがある。

## 参考文献

- CEFR B1 プロジェクト・チーム (2012) 『CEFR B1 言語活動・能力を考えるプロジェクト2011年度活動報告書』
- Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press. (吉島茂・大橋理枝ほか訳編 (2004) 『外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社)
- 串田紀代美 (2012) 「Can-do形式によるタスク遂行型のシラバス構築の試み ― 中上級レベルの「文法復習」シラバスの見直し ―」『日本研究センター教育研究年報』第1号, アメリカ・カナダ大学連合日本教育センター, pp.39-65
- 島田めぐみ・谷部弘子・斎藤純男 (2007) 「日本語科目における言語行動目標の設定 ― Can-do-statements を利用して ―」『東京学芸大学紀要総合教育科学系』58, 東京学芸大学, pp.495-505

## 引用教科書

- 国際交流基金 (2013) 『まるごと 日本のことばと文化入門 A1 かつどう』三修社
- スリーエーネットワーク (2012) 『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版本冊』スリーエーネットワーク
- スリーエーネットワーク (2013) 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版本冊』スリーエーネットワーク

# Can-do statements シラバスに基づく 日本語初級教材の開発

## Development of Japanese Teaching Materials for Beginners Based on a Can-do Statements Syllabus

島田めぐみ\*・伊能 裕晃\*・坂田 睦深\*・澁川 晶\*・新谷あゆり\*  
東泉 裕子\*・宮本典以子\*・谷部 弘子\*

Megumi SHIMADA, Hiroaki INO, Mutsumi SAKATA, Aki SHIBUKAWA,  
Ayuri SHINYA, Teiko, MIYAMOTO and Hiroko YABE

留学生センター

### Abstract

Japanese Language 4, the latter half of the beginner level offered by Tokyo Gakugei University International Student Exchange Center (GISEC), uses a textbook (*Minna no Nihongo Shokyu II*) with a format that builds up sentence patterns. In the end-of-term class evaluation, a frequent comment from international students who take this class is, “I don’t know when to use the grammar I have learned.” Therefore, we decided to develop supplementary teaching materials that can show these students how to use the sentence patterns they have learned in familiar situations. These new teaching materials adopt a syllabus using Can-do statements, where the aims for each lesson are shown by specific sentences describing actions using the language in question.

Teaching materials for 15 lessons have so far been completed, having tested plans for the teaching materials from the 2012 fall term to the 2014 spring term. The following features of the teaching materials became apparent when the expressions covered in them were compared to the sentence patterns covered in *Minna no Nihongo Shokyu I* and *Minna no Nihongo Shokyu II*.

1. Usage in situations not covered in *Minna no Nihongo* has been introduced. For example, in *Minna no Nihongo*, the *verb-te kuru* pattern is introduced with *chotto* and is described as “to go somewhere and come back soon”; however, in our teaching materials, it is described as a reporting expression, such as “*Ginza de o-sushi o tabete kimashita.*”
2. Compared to *Minna no Nihongo*, there are many more situations involving communication with the same age group as international students.
3. Sentence patterns that are necessary in Can-do statements are brought together in the same lesson, regardless of the difficulty of the sentence patterns.

**Keywords:** sentence pattern, communicative language activities description, can-do goal

---

\* Tokyo Gakugei University (4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184-8501, Japan)



**要旨:** 東京学芸大学留学生センターが開講する「日本語4」(初級後半)では、文型積み上げ式の教科書(『みんなの日本語初級Ⅱ第2版本冊』)を使用している。学期末に実施している授業評価では、受講者である留学生から「習った文法をいつ使ったらいいかわからない」などの意見がたびたび聞かれる。そこで、身近な場面での文型の使い方を示すことができる補助教材を開発することとした。新しい教材では、具体的な言語行動記述文により各課の目標を示すこととし、Can-do statements(以下、Can-do)を利用したシラバスを採用する。

2012年秋学期から2014年春学期にかけて教材案を試行し、現在15課の教材案が完成した。本教材で扱う表現を『みんなの日本語初級Ⅰ第2版本冊』『みんなの日本語初級Ⅱ第2版本冊』で扱われる文型と比較した結果、次の特徴があることが確認できた。

- ①『みんなの日本語』では扱われない場面での使用をとりあげている(例:『みんなの日本語』では「V-テくる」は「ちょっと」をともない「どこかに行って、すぐに戻る」という意味で提示されているが、本教材では「銀座でお寿司を食べてきました」のような報告表現として提示している)。
- ②『みんなの日本語』に比べ同年代とのコミュニケーション場面を多く取り入れている。
- ③文型の難易にこだわらず、Can-doに必要な文型を同一の課でまとめている。

**キーワード:** 文型, 言語行動記述, Can-do 目標